

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 若者回復率に直接関係するわけではありませんけれども、対馬のこの若い世代、特に中学生、高校生世代が今、約3割の中学生が本土の高校に転出をしております。そういったところを少しでも対馬にとどめるために、3高校魅力化事業を組み立てまして、特に、対馬高校で陸上部の強化に当たり、いずれは対馬の高校から都大路を走るようなことになれば、対馬に残る子供たちが増えてくるのではないかということで、来年度からこの事業を組み立てております。

そういうことで、直接、若者回復率に影響するとは、なかなか直接はいきませんが、間接的には十分可能なことだというふうに考えております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。最後ですからまとめてください。

○議員（9番 脇本 啓喜君） もう時間が来ましたので、これで私の一般質問は終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は1時5分からといたします。

午前11時51分休憩

午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 新政会の船越洋一でございます。さきに通告をしておりました3点について市長の考え方を伺います。

まず1点目の再生可能エネルギーの導入についてであります。改正離島振興法が本年4月から施行されますが、県も離島振興計画素案を公表し、主な施策として8項目上がっております。その中に再生可能エネルギーの導入や関連産業の参入促進とあります。この制度を活用して、対馬博物館の屋根に太陽光パネルの設置と蓄電設備を兼ね備えて、電力の高騰に備えるべきだと思いますが、市長の考え方を伺います。

次に、対馬市猪鹿加工処理施設について伺います。

この施設は、平成26年9月に営業許可を取得し、主たる目的は、有害鳥獣の被害防止を目的として、捕獲した猪及び鹿の肉等を地域資源として安心、安全に有効活用し、獣肉等の特産品化による地域の活性化を図るとともに、被害対策の促進並びに普及啓発を推進することを目的とし

て、施設運営がなされておりますが、現在では、民間で施設の規模も大きく、対馬全島を視野に事業展開されている業者もあります。また、市の施設は指定管理制度を推進し、財政の健全化を進めている中で、この施設をどうして市の管理で運営しなければならないか、お伺いをいたします。

次に、3点目ですが、厳原港国際ターミナルビル内に韓国人旅行者支援センターの設置について伺います。

平成30年には41万人の韓国からの旅行者があり、経済効果も91億円ほどあったと聞いております。その後、新型コロナウイルスの流行、また国の諸事情も重なり、旅行者も皆無の状況が続き、対馬の経済も厳しい状況が続いております。

本年2月からですが、少数であります、入国が可能となり、今後はさらに韓国人旅行者が安心して安全に対馬で観光ができる仕組みづくりを確立する必要があると思います。

旅行者の相談事や事故、病気などに対する支援事業を総領事館などの公館と緊密な連携体制を構築して、制度的に実施する施設が必要だと思っておりますが、市長の考えを伺います。

以上3点、よろしくお願ひいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。

初めに、対馬博物館の屋根を活用した発電設備の導入についてでございますが、対馬博物館の建設に際し、設計前の段階において、設計業者との間で省エネルギー、再生可能エネルギーの推進のための太陽光パネルの整備について協議いたしております。

当時は、10キロワットから20キロワット程度で、博物館全体の使用電力の37%程度を削減できる計画でありましたが、パネルを設置するとなると、柱などの基礎部分を強化する必要があり、事業費の大幅増となることから、建設コストの縮減を図るため、断念した経緯がございます。

これは、平成27年第3回定例会において、整備面積、建設費の削減について検討するよう指示があったものでございます。今後、対馬博物館に導入・設置するとなりますと、耐久性、耐震性を保つための措置が必要となり、建物の基礎部分や構造そのものに関わる問題となるため、完成した博物館の屋根にパネル等を設置することは、これらの課題に対応する必要がございます。

さらに、博物館の2階には、長崎県対馬歴史研究センターがあり、古文書の研究、修復等を行っております。また、県と市が共同で管理している収蔵庫もあり、県が所有する宗家文書等の重要文化財も多数収蔵しております。技術的にパネル設置が可能という場合においても、設置工事や設置後の維持管理により発生するリスクについて県との協議が必要になりますので、収蔵資料の管理という面からも、これから設置工事を実施することは好ましくないと考えております。

次に、対馬市猪鹿加工処理施設についてでございますが、当施設は獣害から獣財へをキーワードに、肉や皮の有効活用と地域の活性化を図ることを目的に、旧美津島町が建設しておりました鹿処理加工施設を改修し、平成26年9月から猪鹿加工処理施設として運営を開始しております。農林水産省がジビエ普及を掲げる中、本市においてもジビエを広く一般に普及させるため、平成26年度に食の安全を担保するための対馬市独自の衛生ガイドラインを作成いたしました。このガイドラインに沿った衛生管理や解体手順を実践しながら、精肉は学校給食へ提供し、また加工品は主にふるさと納税の返礼品として活用し、令和元年度には農林水産省から鳥獣対策優良活動表彰を受賞いたしました。

施設の運営につきましては、衛生管理ガイドラインに沿った運営を条件に指定管理者の公募を2度行いました。いずれも決定に至らず、直営で運営を続けてきたところでございますが、民間事業者において、本市の衛生管理ガイドラインに基づく手順を踏襲したジビエのほか、加工品の製造、さらには観光客向けの体験メニューまでを網羅した事業を展開しようとする新たな施設建設計画があり、来年度中に実現する見込みでございます。

本計画が実現いたしますと、本施設を取り巻く環境も変化し、市も一定の役割が終了するという形になりますので、当事業は令和5年度中の廃止を進めていきたいと考えているところでございます。

最後に、厳原港国際ターミナルビル内への韓国人旅行者支援センターの設置についてでございますが、韓国人旅行者支援センターは、韓国人旅行者の増加に伴い、旅行者の事故や急病等が増加することが予想されたため、2008年に在日本大韓国民団本部に設置されております。また、各県の地方本部や支部には韓国人旅行センターとして設置し、各地域を管轄する領事館と連携し、韓国人旅行者からの支援要請、管轄する領事館からの支援要請、その他機関からの支援要請に対処されているようであります。

民団中央本部に確認しましたところ、現在、設置されている韓国人旅行者センターは各県の地方本部や支部の事務所に併設されており、空港や港などの施設に設置されているところはないとのことでした。民団対馬支部におかれましても、支部事務所に併設されております。

また、旅行者の安心、安全の確保につきましては、韓国人旅行者に関わらず、全ての旅行者に対して重要なことと認識しております。市といたしましては、韓国人旅行者に対応するため、対馬観光物産協会に委託し、韓国語対応ができる職員を観光案内所に配置し、観光案内はもとより、各種支援要請に対応しております。

また、駐福岡大韓民国総領事館とも連携、協力し、事件、事故の円滑な解決に向けて協力体制を取っており、今後も同様の考えで対応してまいります。

厳原港国際ターミナルにつきましては、対馬市国際ターミナル条例に基づき公募する予定であ

ります。韓国人旅行センターの必要性は十分理解できるところでありますので、民団対馬支部が現在、設置されている韓国人旅行センターの機能を国際ターミナルへ移設することを希望されるのであれば応募していただき、他の事業者との公平性等を考慮し、また領事館の意見も参考にしながら設置の可能性を模索してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） まず1点目の再生可能エネルギーについてですが、市長の答弁の中でも、当初計画をしたときにその可能性を模索したということでございます。しかしながら、経費の削減を図るために少しずつ鉄骨も小さくしたんでしょう。ですから、今の金額になったかなと思いますが、しかし、現実的に考えてみますと、今からこの電力というのは高騰していく可能性がありますね。今現在でも日本全国の電力会社、ここも値上げの傾向に走ってっております。特に対馬の場合もそういうのは可能性があります。

私は考えるのは、年間ここが2,100万円程度、電気代がかかっている。ここは1日、夜中も回しとかないかん。例えば、エアコンを一定の温度にしておかないと文化財に支障をきたしますのですね。だから、そういう施設ですから、特にこの電気代というのは切るわけにはいかないんですね。

そういう施設であるからこそ、電気代を節約するというわけにはいきません。しかしながら、有効にこの再生可能エネルギーを利用して、それを軽減を図るといのは行政の仕事だろうと、私は思うんですよ。

市長は、その維持管理費は大体、年間6,000万円程度という答弁を前されたことがありますが、その3分の1は電気代なんですね、電気代。電気代が削減をできれば、違う展示会のその予算にも組み込める可能性もありますよね。

今現在、当初は6万人ぐらいい入館予定ということでありましたけども、今は半分ですね、開館して1年、4月30日で1年になりますけども、半分ぐらいい入館しかあっていない。

そういうことも重なって、できるだけそういうところは削減すべきことは削減すべきだろうと、私は思うんです。それで、鉄骨構造ですから、屋根の上にそういうものを置くと、鉄骨が、重量がもたんというようなこともあるかも分かりません。しかしながら、やはりこういうことは、再生可能エネルギーというのは、地方は率先してこういうことはやっていかないとと思うんです。しまづくり推進部長にお聞きしますが、この再生可能エネルギーというのは、これを実行するに当たっては、過疎債、それから辺地債、これに該当しますか。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 再生可能エネルギーのその事業の組立方によっては、起

債対象になる可能性もあるかとは思いますが、ただ単純に再生可能エネルギーの建設といいますか、費用がどういうやり方でも対象可能になるところまでは、ちょっとここでははっきりは申し上げられません。すみません。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） この過疎債にしても辺地債にしても、こういうの利用すれば、確か、過疎債で7割、辺地債で8割ですかね、交付税として返ってくるわけですから、そうすると、例えば、ここが1億円かかりましたということになりますと、8割が還元できれば8,000万円は交付税で返ってくるんですね。2,000万円です。単純な計算なんですけどね、市長。今、電気代が二千何百万円かかるんです、年間。そうすると、1年、2年でそこら辺がもとに戻るんじゃないかなと、そういう考え方も私は考えて、この問題を提起した。できるだけこういうことを率先してその自治体がやっていくということは、これ大いに、せっかくこの離島振興法の中で、こういう枠組みができて、離島の活性化につなげていきなさいという国の方針ですから、こういうのをしっかり利活用して、そしてそういうのをやっていくというのは、これはぜひともやっていかないかんことだろうと私はそう思いますが、どうですか、市長。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに私もこの再生可能エネルギーを最大限、活用することにつきましては、大賛成であります。ただ、しかしながら、ここの施設関係につきまして、冒頭ちょっと説明いたしましたように、大手ゼネコンを巻き込んだ上でいろんな検討をしてみいました。そういう中で、約37%程度の電力量が削減が可能ということで計算いたしますと、約700万円から800万円ぐらいの電気代が削減は可能だと。しかしながら、ここは恐らく屋根が傾斜した、結構きついですから、傾斜した上に太陽光パネルを乗せるというようなことで、ランニングコストがものすごく高いんですけど、要は点検とか保守関係で試算が年間1,000万円を超えてかかるというようなことで、電気代が安くなる分は、その保守管理料で逆に高くなってしまいうようなことがありまして、ここは断念をしたといった、そういった経緯もございます。

そういう中で、確かに構造等によりまして、この太陽光パネルを敷設したほうがかなり有利になる場合が多いかと思っておりますけども、ここについては何かそのようなことで、ちょっとかなりの事業費もそのときは、基礎材とか柱等の構造が高くなると、それとまた太陽光パネル敷設の経費が要る、また最終的にランニングコスト等に結構な経費がかかるというようなことで断念した経緯がございますので、御理解をお願いしたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 今、市長の答弁ですと、太陽光を設置するところはありませんね、そういうふうに経費がかかるのであれば、太陽光というのはどこもつけませんよ、維持費がかか

るということであれば、それじゃもう設置するところはありませんよね。

ところが、うちの家も75枚付けているんですよ。15.8キロ発電する能力があるんですが、これは、私のところは売電を主にしていますので、ところが、ここは売電はしないんです。自分のところの電力を自分たちで賄うというやつですから。だから、蓄電施設も備えないかと思うんですよ。

だから、業者の言うことを全部まともにうけてやりよったんでは、こういう再生可能エネルギーを屋根の上につけてやるということになってくるとか大変なことで、つけるところはありません。普通の平地につけろということですが、そういうのは可能になりませんので、しかし、せっかくの大きな屋根があるのにそれを活用せん手はないじゃないかというのが、私の発想なんです。

当初、計画のときにそこら辺も検討をしたということ、答弁がございましたけども、しかし、先々のことを考えると、やはりそういうのはやっておかないかんことだと思うんです。対馬の人口を、将来設計人口を見てもみますと、2030年には2万3,800人ぐらいですね。2040年になりますと1万9,300人ぐらいです。2050年になりますと1万5,000人ぐらいの、人口が減っていく予定なんですね、今、推計ですから。

そうすると、人口は減っていきますよ。そうなってきますと、人口は減って税収は減ってくるのに、一般財源からこれを出していかなないかんということになってきますと、財政はより厳しくなってくる可能性はある。だから、そういうことまで市長はやっぱり考える必要があろうかと思うんです。

ぜひこれは、そういう今、市長が言われたこともあります、ぜひ検討を再度していただきたい、ここ、強度計算もされて、もう一回どうにかなる可能性はないかということをやっと調査してみてくださいよ。

今から先のことを考えると、それはぜひともやっておく必要が、私はあると思うんです。お願いをしておきます。

次に、猪鹿の問題に入りますが、今年度も1,430万円ほど予算を組んでおられますね。これの中には、市債が540万円、一般財源で890万円予算をつぎ込んでやっていくんですが、今までの猪鹿のところの決算書を見てもみますと、8年間で5,400万円ぐらいの赤字が出ているんですよ。それは市長、頭の中に入っていますか、ですね。

なぜこのような赤字を出しながらでも、これを続けていかなないかんのかと、私はそう思うんです。理由を教えてください。続けていかなないかん理由を教えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず初めに、冒頭、答弁いたしましたように、まず結論として、令和

5年度中にこの施設の廃止を進めていきたいということでございます。

それとまた、なぜこの施設をつくったかということでございますが、このことにつきましても、先ほど、るる説明をさせていただきましたけども、やはり、この（発言する者あり）継続でしょう、ですから5年度で終わるということでございます。

これまでが継続いたしましたのが、やはり対馬市でこの猪鹿対策をすることはもちろんでございますけども、そのジビエ料理を一般的に普及をしていくためには、衛生的な、衛生管理のガイドラインに沿った施設ではないと、なかなか難しいと、普及がですね。

そういう形で市が率先してそのような衛生的な施設のもと、一般的にジビエを増やしていかなければならないというようなことで、これまで継続をして進めてまいりましたけども、来年度、市が直営でやっておりますような、そういった加工施設を民間のほうで構築するということが決定いたしましたので、そういうことであれば、市はここで手を引いて廃止をしていこうという決定をしております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 今までもこの8年間、投資をしていますので、なかなかやめるのはもったいないという気はするんですが、しかしながら、余りにも負債が多すぎる、5,400万円もですね。今、ふるさと納税のほうで、8年間のうちの6年間ぐらいはふるさと納税のほうでそういうジビエを出していますけれども、これも900万円程度ですね。そうしますと、やっぱり赤字のほうが大きいですよ。民間の今ある施設の方にちょっと聞いてみますと、年間、ここが1,800頭ぐらい捕るんですね。月に150頭ぐらい処理するということなんですから、そこらがそれだけの頭数を捕って、いろんなところに、そこも冷凍して食品で販売を、送っているんですけどね。そういうところもやっぱり、しっかりと補助してやらないかん、バックアップをしてやらないかん、対馬の猪鹿をそういうふう加工して送るわけですから。

しかし、それは民間ですから、市のほうがどうのこうのというわけにはいきませんが、民間の努力でやってもらわないかんけど、しかし、民間は民間でそれなりに一生懸命やっておるところがあるんですよ。

市の施設から今度、民間がやるということですが、それは市のほうはノータッチなんですか、ノータッチ。民間が独自でやるということなんですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今度、市のほうの雇用活用事業を、活用をされて起業されるということでございますので、最初の、その雇用活用の補助金は出せるものとは思っておりますけれども、その以後は市の補助はないということでございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 当初、事業を立ち上げるときにはそういう補助制度がありますからそれを使ってやるんだらうと思うんですね。しかしながら、それから後については補助は一切ありませんと、自分のところの事業努力でやっていただくということなんですけども、やはり、もう一つ、対馬全島を網羅してやっている業者にしてみても、一生懸命捕ってきて、例えば、今の市の加志の猪鹿処理場は、猪を自分たちで捕りにいくんですか。あるいは鉄砲で撃って捕ってくる、罠に入っておれば捕ってくるんですよね。ところが、どういうふうな捕獲の仕方をしているんですかね。年間、この8年間で800頭ぐらい、850頭ぐらい処理していますけれども、大体1年間に100頭前後、処理しているんですよね。だから、どこかに委託して、それをやってもらっているのか、自分たちで捕りにいって鉄砲で撃って持って帰ってくるのか。そういうこともやっぱりしっかりしとかんと、確かにここはダイオキシンの検査もし、いろんなことをやっていますから、職員については問題はないと思うんですけども、しかし、そういうのに金がかかり過ぎて、全くもってこの事業としては成り立っていないんですよ。8年間で5,400万円の赤字を出しておるわけですから、それは市の金が出ていっているんですから、一般財源から。

やっぱりそういうことを考えると、市民の皆さんには申し開きつきませんよ。だから、今年度で終わって来年度はやり変えますということですから、市の金が一般財源で行かないように、そういうことを十分気を付けた中でやっていただきたいと、このように思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 詳しい内容については、担当の部長のほうから答えたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） どういった形で猪、鹿を施設に搬入しているのかという御質問でございますが、加志の施設の場合は、箱罠に入っている猪、鹿。生きておれば代わりの箱罠に移し替えて施設に持って行ってそこで処理をしていると。そうじゃなくて、くくり罠とか生きたまま捕獲するのが難しい場合は、屠殺して時間がたっていないそのものを御本人様に持ってきてもらう、またはこちらから時間のあるときには捕りにいく、そういった、臨機応変に対応しているといたるところでございます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 今後、来年立ち上げるというところもそういうふうな感じでやるんですか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

来年度立ち上げる事業所も加志でやっている方たちがそのまま移行しますので、やり方も同じだろうというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） やることはいいことなんですが、ですね、赤字を出さんようにせなあかんですよ。市民の皆さんにどう説明しますか。これ見ていないから、分からんからみんな何にも言いませんが、決算書を見てみると、こんだけの金額が出ているんですよ。そういうところをしっかりと組み立てていただいて、赤字が出ないような方法を考えてください。お願いします。

それから、3点目に行きます。この韓国人旅行センターの件なんですが、市長。これは、今、市長の答弁の中に、観光協会ですか、そこに委託をしてその人たちが韓国語も取得をして、そして対応をしていくというような話がございました。しかしながら、この民族性というのがあります。日本人の人がそこで対応しますからどうぞって言うたって、なかなかそうはいかんと思うんです。

同じように、韓国の方が、民団の方がおられて、そしてその人たちがアピールしていくということになってきますと、雰囲気は全然変わりますよね。

それともう一つは、昨日ですかおとといですか、伊原議員が質問をされていたように、韓国人、その韓国人の人たちが対馬に入って滞納税はないのかと、税金はみんな収まっているかっていう質問をしましたよね。それも少しはあるみたいですね。その手立てをどうするかとなってくると、市のほうでは対応しきらんでしょう、その未納金額を。

例えば固定資産税、未納になっています。市県民税も未納になっています。それを未納になっていますけどと放たっておけば不納欠損で落とさないかんわな。しかし、その対応の仕方をするにしても、観光物産協会ですか、そこの方たちがそれを対応はしますよというけれども、そういうところまではタッチできませんよね、ですね。

そうしますと、そういうところ、こういう民団っていいですか、韓国人の旅行センターをつくっておけば、そこの方たちが、例えば入国をする、どこかで商売をする、そして物を買う、土地を買う、そういうときにも民団のほうからそういうのを喚起していただいて、不動産取得税、そういう固定資産税、そういうのをしっかり納めてくださいよということの喚起もできると思うんですよ。

だから、そういうことにも、そういうところをつくっておいたほうが、使っておいたほうが、私は便利がいいと思う。どうでしょうかね。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 韓国人の旅行者に関しまして、この旅行支援をする意味合いから、国際ターミナルのほうに配置するということにつきましては、私もこのことについては、前向きないいことだという捉え方をしております。

ただし、今、議員がおっしゃられるように、そういった税関係とか、そういったことをするためにこの国際ターミナルに旅行支援センターが入るといようなことになれば、ちょっと目的を逸脱してくる恐れがあると。あくまでそういった税関係とか他の韓国人旅行者の生活に関わることにつきましては、やはり今までどおり、民団の事務所のほうで処理をしてもらうべきじゃないかなというふうに、私は思っております。

ただし、今、議員がおっしゃられるように、これからまた韓国人旅行者が増えるものと思われまます。まして、厳原港の国際ターミナルのほうが開設した場合は、よけい増えるということでございますので、その際に、この旅行支援センターの機能を国際ターミナルのほうに移管したほうがいいということで、民団のほうも希望されるならば、そこは応募をまずさせていただこうということと動こうかということとを今、庁内で協議しているところであります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） そういうふうな考え方を市長がしてあるということは、民団の人たちも喜ぶと思うんですね、旅行センターをつくろうと。その人たちは前向きに旅行センターをつくって、韓国からの観光客が安心して安全に旅行ができるための施設をつくりたいということなんですから。

5年前、41万人来ていたときに、そういうのがあったかと、そういう旅行センターみたいなのがあったのかと、ありませんよね。しかし、今回はそういうところからそういう申し出もあっておりますので、ぜひこれは、厳原の国際ターミナルビルの中に、こういうのを一つつくることによって、韓国からの韓国人旅行者の方たちが安心感がまずできると思うんですよ、安心感が。それを、日本人がそこに行ってするんじゃないしに、韓国人がそれを受付をしてくれるわけですから、対応してくれるわけですから、安心感がありますよね。

どうしても私はそういう施設はつくっておく必要があると思うんです。だから、市長の先ほどの答弁でも、それは意義があるということですから、それは、しかし、応募してもらわないかんとするのは分かるんですよ、分かります。これを普通のテナントにしてもそうなんです。そこ一緒なんです。しかし、目的が違う、普通のテナントとそことは。

普通のテナントは、例えば物をそこに持って行って売りますよというそういうテナントと、そういう旅行者を安心、安全なことに導いていきますよという事務所とはまた訳が違いますよね。そこら辺も考慮に入れていただいて、何とか厳原のターミナルビルの中にここを入れるようなことを考えていただきたいと思うんです。

だから、検討はしていただけるとは思いますが、ここに入れんやっったときはどうにもならん。韓国人観光客も安心感がない、それをしっかり協議してみてくださいよ。まだ時間がありますからね、完成するまでには、何とかそこら辺を検討していただけんですか。答弁を願います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） これは、要はまだ国際ターミナルも完成はしておりませんが、先ほどもちょっと答弁いたしましたように、あくまでその重要性というのは十分認識はしているところではございますけれども、また半面、公平性というところで、そこで応募者数が、少ないときには優先的に入れることも可能ですけど、同じような旅行関係の会社等が数多く応募されてきたとき等については、やっぱりそこはちょっと公平性も担保せんばいかんというようなことを、今考えているところがございますので、今後の検討課題ということにさせていただければと思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 確かに公平性は保たないかんでしょう。しかし、対馬市が今、韓国人観光客の受け入れ態勢をしっかりとつくって、経済効果を生み出していかにやいかんというようなことも、頭の中にはあるわけでしょう。いかにこの韓国人観光客が元どおりまでいかにしても、せめて20万人でも来てくれれば経済効果は出てきますから、それについては、やはりそういうことをしっかりと、安心して安全に旅行ができるというシステムはしっかりとつくるべきことだろうと私は思うんです。

今までそういうのがなかったんですから、今度はそういうのをつくってやって、そういうところにそういうのを置いて、そして、それが安心、安全、相談をどこにでも行けるというぐらいのシステムづくりをやる必要があると思うんです。

それをかたくなに、何て言いますか、公募していただいて、それで、その中で、協議した中で入れましよう、とか、そういうかたくなのは、そういうことを言わんででも、対馬市の目的は何ですかとなったときに、韓国人観光客をしっかりと、たくさん受け入れたいという思いはあるやないですか。その人たちに安心、安全を与えるのを、そういうのをつくらんにやいかんということをお願いするわけですから。何もそこをかたくなにそれを、四角四面に、いやこうしてもらわんとだめですよってというようなことでは、やはり、私は物事を先にづらんとと思いますがどうですか。もうちょっとにっこり笑って言うてみてください。分かりましたって。どうぞお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 分かりましたと言いたいところなんですけども、要は言うように、やはり、まだまだどれだけの事業者が応募されるか分からない中で、またそういうことを発言しておきますと、いろいろと差し障りが出てくるものと思われまますので、もうしばらくそこら辺は様

子を見ながら協議をさせていただければというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 市長の気持ちも分からんでもないんですね。しかしながら、私が思うのは、韓国人観光客をたくさん受け入れたいという思いがあって、その中に旅行者の方たちが安心、安全で対馬に来て旅行ができる、何かあったときにはそこに飛び込めばいいという、そういった安心感があると、そういう施設は置いておく必要があるということを言います。

ほかに前例がないかも分かりませんが、前例ちゅうのはつくってからしか前例はできませんから。何とかそこら辺をしっかりと考慮していただいて、その、巖原のターミナルビル、入れるように配慮してくださいよ。

何かいい返事せんね。どうですか。よくよく検討して、いい返事を聞かせてください。副市長、よろしく願いしておきますよ。

もうこれで、市長の答弁もこれ以上出てきませんので、もうやめます。あとはいい答弁を、結果を見ておくだけですから、これで終わります。よろしく願いしておきます。

○議長（初村 久藏君） これで、船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を2時10分からといたします。

午後1時53分休憩

午後2時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、大変お疲れさまです。改めまして、会派對政会の波田でございます。市長をはじめ皆様方におかれましては、連日の質疑応答のおつき合いで大変お疲れとは思いますが、私で最後となりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

質疑に入る前に、市長へお伝えさせていただきます。

地域住民をはじめ島民の悲願でもありました（仮称）尾浦トンネル、尾浦安神トンネルと申しますかね、工事の発注がなされたことに対しまして、クリーンセンター処理場誘致の約束事でもありました案件について、たくさんの喜びの声が上がっており、市長をはじめ関係各位へ感謝する旨の伝言を受けておりますので、この場をお借りしまして、申し添えておきます。

それでは、本題に入らせていただきます。

今回の質問項目としましては一つに絞り、本庁機能を有する巖原庁舎の今後の活用に向けての方向性について御質問いたします。